

第13回 まちとすまいの集い

3.11後のまちとすまい

— 備えあれば未来あり —

2011年 11月5日(土)
13:20～16:30

名古屋大学 ES総合館1階 ESホール

名古屋市営地下鉄名城線
「名古屋大学駅」2番出口より徒歩約2分

参加費 無料(定員180名)

主催 名古屋大学大学院環境学研究科 建築学教室

後援 (社)日本建築学会 東海支部
(社)日本建築家協会 東海支部
(社)愛知建築士会
(財)名古屋都市整備公社 名古屋都市センター
(社)空気調和・衛生工学会 中部支部
(社)建築設備技術者協会 中部支部
(社)日本建築構造技術者協会 中部支部
なごや環境大学



2011年3月11日、マグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。千年に一度とも言われる未曾有の規模の地震は、多くの人々の命を奪い、また、過去の蓄積であるまちとすまいを奪いました。

現在は、その復興への取り組みがはじまっております。一方で、東海地震などの大きな地震の可能性が指摘されている東海地方に住む我々には人ごとではありません。3.11を契機にまちとすまいに関する人々の意識は大きく変わりつつあります。

来るべき災害に対して、どのように備えるのか、また、いまの備えはどの程度かを振り返りつつ、エネルギー問題や経済問題を支える枠組みの話題提供をもとに我々の備えと未来についてディスカッションを繰り広げたいと考えています。

【開催概要】

日時 2011年11月5日(土) 13:20~16:30
 場所 名古屋大学ES総合館1階ESホール
 参加費 無料(定員180名)

【プログラム】

13:20 主催者挨拶(建築学教室主任 大森博司)
 13:30 講演① 松岡 利昌
 「BCP(事業継続性計画)とDRP(災害復旧計画)」
 14:20 講演② 奥宮 正哉
 「無理なく減らして快適に」
 15:10 休憩
 15:20 講演③ 護 雅史
 「大震災に学び、来るべき地震に備える」
 16:10 全体の質疑応答
 16:30 閉会挨拶

なお、12:30より各種展示、地域防災交流防災ホール(環境総合館4階)をご覧ください。

【会場案内】

**名古屋大学
ES総合館**

名古屋市営地下鉄名城線
名古屋大学駅2番出口より
徒歩約2分

●お願い
車でキャンパス内に入る
ことはできません。
公共交通機関をご利用
ください。

【お申し込み方法】

必要事項(お名前、ご所属、ご住所、TEL/FAX/E-mail)を記入の上、下記までE-mail、FAX、または郵送にてお申し込み下さい。
 11月2日(水)締切とさせていただきます。

【お申し込み・お問い合わせ先】

名古屋大学建築学教室
 まちとすまいの集い事務局(担当:田村、穂積)
 〒464-8603 名古屋市千種区不老町 C2-④
 TEL: 052-789-5233 FAX: 052-789-3773
 E-mail: machi@nuac.nagoya-u.ac.jp
 http://www.nuac.nagoya-u.ac.jp/machi/

NEWS! 建築学教室が入居する新校舎完成!



建築学教室が入居する新校舎「ES総合館」が今年3月に完成しました。益川敏英・小林誠・下村脩先生のノーベル賞記念展示スペースの他、全館LED照明とするなど環境配慮・省エネ対応技術が盛り込まれています。

【講演概要】

① 「BCP(事業継続性計画)とDRP(災害復旧計画)」

松岡 利昌 (まつおか としあき)

専門分野: ファシリティマネジメント、キャンパス計画、経営戦略

東日本大震災が発生した際、多くの日本人は「想定外」に右往左往していました。しかし、同じ頃、例えばドイツ系企業は、直ちに東京の本社機能を大阪に移設。また、フランス系企業関係者は、チャーター便で帰国を開始しました。このスピーディな震災対応の違いは何なのでしょう。実は、グローバルな欧米企業は、世界レベルのBCP(事業継続性計画)と被災に遭った場合のDRP(災害復旧計画)を予め用意していたのです。この講演では、自然災害等に十分に備えを行う考え方として、BCPのための施設マネジメントをご紹介したいと思います。安全安心な建物がどこにあり、どう使っていくのか。十分な備えを用意することこそが未来につながると考えます。



② 「無理なく減らして快適に」

奥宮 正哉 (おくみや まさや)

専門分野: 建築設備、地域冷暖房、自然エネルギー利用

建物・地域でのエネルギー利用のことを考える場合、地球温暖化防止のための努力は継続的に推進していかなければなりません。しかし東日本大震災の影響により、様々な方面での方向転換が余儀なくされました。例えば、エネルギーシステムの転換が叫ばれており、われわれ需要家サイドでは省エネルギーとエネルギー使用のピークカットの両立、自然エネルギー利用などが大きくクローズアップされてきました。そこで、この講演では住宅、業務用ビルの冷暖房・空調を中心に省エネルギー、エネルギー使用のピークカットのための方策、自然エネルギー活用とはどんなことがあるのか、また地域のスマートエネルギーシステムなどの紹介をしたいと思います。



③ 「大震災に学び、来るべき地震に備える」

護 雅史 (もりまさふみ)

専門分野: 地震工学、耐震工学、建築基礎構造、地震防災、動的相互作用効果

東日本大震災では、1万5千名を越える尊い命が失われました。今回の大震災は、大きな揺れ、津波、原子力と複合的な災害であること、青森~関東地域までの非常に広域な災害であったことが特徴として挙げられます。しかし、津波災害、原子力災害が余りに大き過ぎたため、揺れによる建物被害はほとんど注目されていないといっても過言ではありません。近い時期に必ずやってくる南海トラフの大地震では、今回の数倍以上の建物被害が発生すると予測されています。本講演では、この大地震から子供たちの将来を守るために、私たちが今なすべきことについて、東日本大震災だけでなく、阪神・淡路大震災も振り返りながらお話したいと思います。

